

キャラクター名
河口 美湖 (かわぐち みこ)

プレイヤー名

シンドローム	オルクス サラマンダー		ワークス	中学生	カヴァー	中学2年生
	オプション		年齢	14	性別	女
覚醒	償い	衝動	加虐		初期侵食率	33 %
出自	兄弟：河口龍之介		経験	部活動	邂逅	友人：和泉涼

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	2	0	0			2	行動値	9
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	9
精神	2	0	3			5	戦闘移動	14
社会	3	0	0			3	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	9		交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂 (コネ権あり)	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN (コネ権あり)		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
山の中の白鳥	R C	5r+19		10		侵蝕3/雨粒の矢/攻撃力10 (パーニング中+8)
@100-	R C	8r+21		12		攻撃力12 (パーニング中+10)
サイコキネシス・レイ	R C	5r+19		22		侵蝕6/雨粒の矢+シングインザレイン/攻撃力22 (パーニング中+8) /1シナリオ3回
@100-	R C	5r+21		28		攻撃力28 (パーニング中+10) /1シナリオ3回

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：噂好きの友人	
コネ：UGN幹部	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
奇妙な隣人	P	N		
兄：河口龍之介	P 親近感	N 恥辱		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
オリジン：レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	-	RB	
効果： シーン中、【精神】を使用した判定の達成値+[Lv*2]								
雨粒の矢	5	3	メジャー	視界	シーン (選択)	RC	-	
効果： 「攻撃力+[Lv*2]」の射撃攻撃/コンセ使用不可								
シングインザレイン	3	3	メジャー	-	-	シンドロームリミット		
効果： 雨粒の矢と組み合わせて使用/攻撃力+[Lv*4]/1シナリオ3回								
パーニングハート	4	2	オート	至近	自身	-	-	
効果： 自分がHPダメージを受けた直後に使用/暴走を受ける/シーン中、自分の行う攻撃の攻撃力+[Lv*2]								
凍結保存	★	-	メジャー	至近	単体	自動成功	-	
効果：えいっ！ってやると、凍るんだよね。/人体を凍結させるエフェクト。対象の老化や腐敗、病傷の進行を停止させる/自分の任意のタイミングで解除できる								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【とある少女の奇妙な日常】

河口美湖はどこにでもいる普通の女の子だ。
強いて特徴を挙げるとすれば、魚が大好きな女の子だ。
食べるのも好きだし、眺めるのも好き。
食べる魚は食べる魚、眺める魚は眺める魚と切り分けて考えているので、水族館の魚を見て「食べたい……」と思うことはないし、食用の魚を食べるのは躊躇しない。
魚を食べ続けてもそれほど頭が良くなるというのは、悩みの種の一つだが……

それはさておき、彼女の部屋には小さいアクアリウムがある。
小さいが装飾と魚たちの暮らしやすさを兼ね備えた立派な水槽で、熱帯魚の世話をするのが趣味だった。

ある日、飼っていたグッピーが一匹死んでしまった。
美湖は自分のせいだとたいそう落ち込み、庭にお墓を作って大切に埋葬した。
涙で枕を濡らしながら、やっとのことで眠りにつこうとしていた深夜。

『聞こえ……ますか……私の声が……』

えっ？ なにこれ漫画で聞いたようなセリフだな。というかどこから聞こえるのこの声？
不可思議な現象に思わず飛び起きて辺りを見回した。
……いたのだ。目の前に。
優雅に空中を泳いでいる、半透明のグッピーが。